

2021 年度 NPO 法人外出支援サービス ハミング 活動報告

2021 年度は、コロナ禍にあってもオリンピックの開催はありましたが、一般的な社会活動は抑制的であり、ワクチン接種も一定程度進んだものの終息は望めず感染者の増減に翻弄される状況が続きました。マスクや頻繁な手指消毒等基本的なコロナ対策はある程度浸透し、必要な通院や外出も徐々に実施されるようになり、外出支援も多少回復の兆しがありました。一方、運転会員の確保は難航しており、退会するメンバーの埋め合わせが思うように進まない状況は他自治体の移動支援グループにおいても同様です。移動部門会議や地域ワーコレ会議では、W.Co の働き方を広めるための説明会開催等努力をしていますが、地域でも外出支援の周知に努めるとともに W.Co の意義や魅力を広める必要をあらためて認識しているところです。また、最近の傾向として、重篤な利用会員の入会が増加し、対人的にも難しい事例に遭遇していますが、いっそうのメンバー同士の協力が重要です。市民同士の助け合いや支え合いは豊かな地域社会を築く上でなくてはならないものです。共に学び合い経験しながら知恵を出し合い、困難を克服していきたいと願っています。

- 1 事業の安定と拡大を目指して組合員を 2 名増やします。(実績→太字、()は昨年度実績)

新組合員の入会はありませんでした。 (0 名)

- 2 利用会員を 15 名 増やします。

7 名が入会し、現在 25 名の登録です。 (18 名)

- 3 外出支援件数 1320 件をめざします。月平均 110 件

1126 件、月平均 94 件でした。 (1025 件 月平均 85 件)

※ これまで特別企画の枠で計上していた事業は、外出支援事業と実質では違いがないことから、7 月からは外出支援に合算しました。

- 4 付添介助時間 600 時間をめざします。(月平均 50 時間)

582.25 時間、月平均 48.5 時間でした。 (405 時間 月平均 34 時間)

5 お出かけ企画 趣味やお楽しみでの外出が増加するように努力します。ハミングから積極的に企画し、利用者に募集をかけてお出かけ企画ができるよう努力します。

新型コロナウイルスにより、利用者の要望に応えた通院以外の食事や観光等の企画は、昨年同様できませんでした。しかし、個人的な要望があった場合には、食事や買い物等にご満足いただけるまで対応に努めました。

6 事業の拡大と継続に向けて世代交代をしながら理事の増加と交代の検討を進めて組合員の意見が活発に出されるような場所と時間づくりを工夫します。

定期的に理事会を開催し、今後に向けて討議しました。

7 地域に向けた福祉サービスの情報提供や助け合いのシステムづくりをさらに進め、充実に図ります。

☆広報・宣伝活動、組合員の募集

HP や地域包括向けのニュースで訴えました。

☆参加型福祉活動に関する学習会や講演会の開催を実施します。

組合員の募集については、機会を捉えて積極的に勧誘しましたが、加入には至りませんでした。

ホームページを開設しました。

学習会、講演会の開催は実施できませんでした。

8 特定非営利活動法人一期一会の受託事業である「デイ愛甲原」と「風の丘」の通所送迎の安全運行に努めます。

一期一会と連携を図り、安全運転に努めました。

事故等があった場合は、運転会員皆で共有確認し、以後の運転に活かすように努めることを確認しています。

また、デイ愛甲原や風の丘の日常的な変更等、要望には臨機応変に応えました。

9 メンバーの力量アップと安心・安全の外出支援サービスを提供するために研修会や

学習会に出席します。

ワーカー不足により移動部門会議が開催した学習会に参加できませんでした。

- 1 0 移動困難者がより自由に移動できる社会をめざして、各方面への働きかけを行うとともに、支援や理解をして下さる方が増えるように努めます。

私たちの活動を理解してもらえるように、真摯にワークに取り組みました。

認定 NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワークの依頼で、認定運転者講習の講師として協力しました。

- 1 1 たすけあい「W.Co 基金」へ寄付をします。

寄付をしました。

一方、新型コロナによる利用減少で厳しい資金繰りがつづいています。神奈川共同募金会(赤い羽根)、また、W.Co 連合会からは今年も会費の一部が返金され、活動収入の一助となりました。

- 1 2 私たちのはたらきを援助する意志ある団体を探し、助成金や補助金を受けることができるように努めます。

神奈川共同募金会から助成を受けましたが、募金活動の実施はありませんでした。